



2019年度 学校と経営者の交流活動推進委員会
活動報告

2020年8月

公益社団法人 経済同友会

本報告は、2019年度事業計画に基づく活動成果をとりまとめたものです。公表時点で課題となっている新型コロナウイルス感染症問題を十分検討・反映したものではありません。

目次

．はじめに：活動報告の取りまとめについて	1
．学校と経営者の交流活動推進委員会の活動概要	2
1．出張授業等	2
2．教育フォーラム	4
3．委員会における有識者との意見交換	5
．教育現場の声と経営者の気づきから得られた課題と今後の活動への示唆	7
．経営者による出張授業や講演の事例紹介	14
．おわりに	23
巻末資料	24
1．2019年度出張授業等実績一覧	24
2．出張授業等の実施件数	28
3．教育フォーラム開催実績	30
学校と経営者の交流活動推進委員会 名簿	33

・はじめに：活動報告の取りまとめについて

経済同友会は、教育をめぐるさまざまな課題について、継続的な検討・行動に取り組んでいる。なかでも、提言『学校から「合校(がっこう)」へ』(1995年)で述べた「学校、家庭、地域社会が各々の役割と責任を自覚し、みんなで知恵と力を出し合って、子供たちの新しい学び育つ場をつくる」という考え方は、当時も教育現場から大きな共感を得て、今尚こうした方向で教育関係者による改革・実践が進んでいる。

こうしたコンセプトに基づき、教育改革を「自分の課題」として捉え、できることを一つずつでも実行していくことが社会的存在である企業・経営者の責務であると考え、1999年度教育委員会¹の活動の一環として、経営者自身が教育現場に赴き無償で出張授業等を行う交流活動を開始した。

活動開始から20年を経て、グローバル化の進展や技術革新の加速等により、経済・社会は大きく変化した。学校を取り巻く環境も大きく変化しており、子どもたちが予測のつかない未来を生き抜くための力を身に付けるには、教育のあり方を抜本的に見直す必要がある。

2019年度は、実践・行動を司る委員会として、出張授業等の質を保証する必要があるとの問題意識から、教育現場のニーズや期待に応えられているのか、出張授業等を実施した教育現場からフィードバックを貰い、課題等を整理・検証することとした。

同時に、委員からも、出張授業等を通じた児童・生徒、教員、校長、保護者等とのコミュニケーションから感じる教育現場の課題や気づきについて、経営者の視点からの意見を収集し、正副委員長会議、委員会において意見交換を行った。

本報告は、2019年度の活動を中心にまとめるとともに、交流活動を通じて得られた教育現場および経営者からのフィードバックを基に、真に「開かれた学校」を実現し、子どもたちに多様な学びの機会を提供するうえでの教育現場の現状と課題を整理したものである。また、それらの課題等を踏まえ、交流活動等の質向上に資する事項、交流活動とは別の枠組みの中で解決が期待される事項を検討した。

行政、学校等において、教育政策・教育活動の参考にしていただくとともに本会内においても、子どもたちの資質・能力の醸成への貢献、学びを支える学校・先生方の支援を目的とした交流活動のさらなる質向上に向け、より多くの会員各位に参加・協力いただくとともに、政策委員会等における提言の一助として活用されることを期待する。

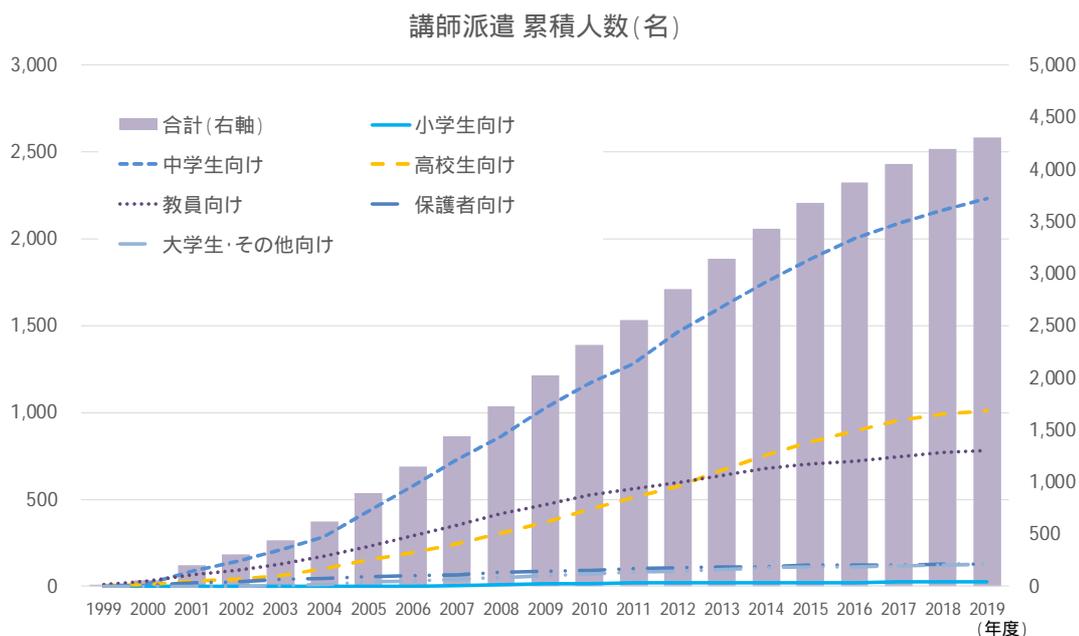
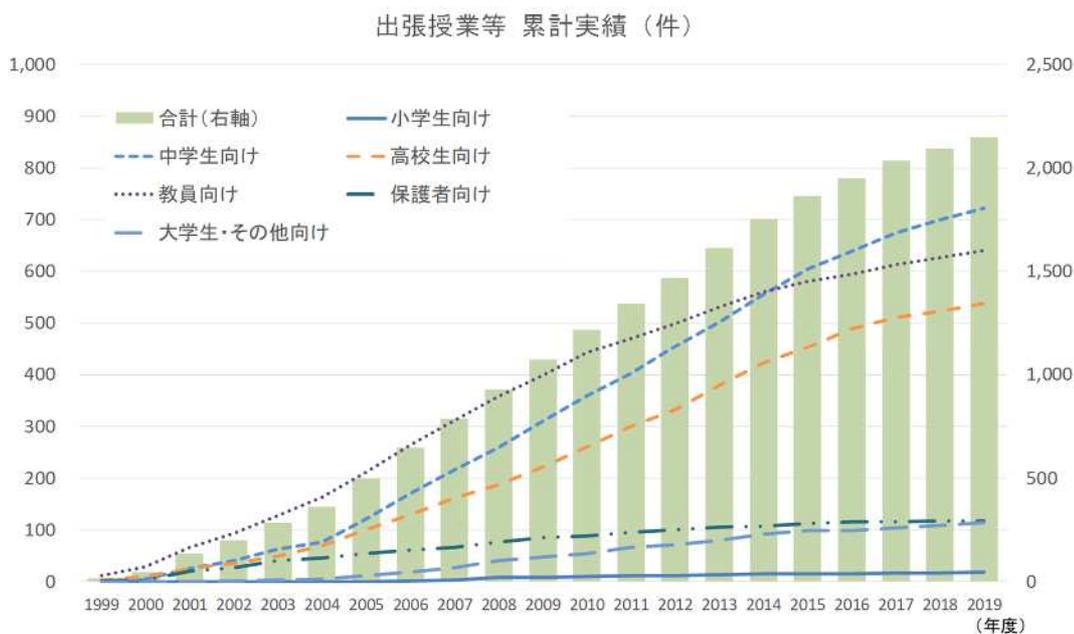
¹ 1999年度教育委員会(委員長：北城格太郎 日本アイ・ピー・エム 取締役会長)提言『学校と企業の一層の相互交流を目指して～企業経営者による教育現場への積極的な参画～』(2001年4月)

．学校と経営者の交流活動推進委員会の活動概要

1．出張授業等

本委員会が通年で実施している活動は、児童・生徒を対象とした出張授業や、教員研修や保護者を対象とした講演である。これらは、学校等からの申し込みに応じて、開催希望日程・テーマに合わせて調整を行い、実施している。

1999年度の活動開始から2019年度までの間に、出張授業等の実施件数は約2,100件、派遣講師数は延べ約4,300人を超えた。



生徒対象の出張授業は、キャリア教育の一環として実施されるケースが多い。中学2年時に実施される職業体験の前後に、生徒の職業観の醸成を図ることを目的に実施されるものや、中学校・高等学校卒業間近の3年生を対象に、社会との繋がりを意識してもらう観点や、生徒に将来への希望を与えるメッセージを経営者に期待して実施されるケースもある。また、グローバル化の進展により、海外研修を行う学校もあり、出発前に、グローバルビジネスにおける経営者の経験を生徒に伝えてもらいたいというケースもある。社会や教育課程の変化とともに学校等からの要望も少しずつ変わってきている。

出張授業を実施した学校等からは、「生徒の持つ仕事に対するイメージが変わった」「グローバルの最前線にいる企業トップの言葉は実践に裏打ちされた重みがあり今後の教育活動への大きなヒントを得た」保護者からは「世界・社会の変化を自身も意識しなければと思った」といった感想が寄せられ、なかには継続的な実施を希望する学校もある。

2019年度の出張授業は、小学校1件、中学校21件、高校15件、大学5件、教員研修13件の計55件、延べ104名の経営者が講師として教育の現場に赴いた。

本年度は、比較的教育リソースの豊富な都内中心から活動の範囲を広げることとし、北海道網走市の小学校、青森県八戸市の中学校、東京都島しょ地域の中学校、千葉県勝浦市の中学校、横浜市の中学校・高等学校、兵庫県神戸市の高等学校、愛媛県松山市の中学校において初めての出張授業を実施した。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大抑制のため、学校休業措置がとられた結果、2020年3月に予定していた活動は全て中止となった²。

< 生徒対象の出張授業の主なテーマ >

- ・働くということ（働く意義や職業観など）
- ・多様な社会・グローバル社会で生きる
- ・社会を考える、世の中を知る
- ・これからの社会で必要となる力、求められる人材像
- ・企業におけるCSR活動・SDGsへの貢献
- ・起業について 等

< 教員対象の講演等の主なテーマ >

- ・民間企業の人材育成と組織マネジメント
- ・企業から見た学校教育への期待
- ・これからの社会を生き抜く次世代育成の視点、教育のあり方
- ・少子化における産業界と教育界の連携のあり方 等

² 2020年3月に予定されていた出張授業は、中学校4件、高等学校2件、派遣予定講師21名である。

2. 教育フォーラム

本委員会活動のもう一つの柱が年1回開催している「教育フォーラム」で、さまざまな中学校の生徒、教員、保護者、経営者が参加する。2006年度の第1回以来、2017年度の第12回までは「勉強するのは何のため？働いてどういうこと？」をメインテーマに開催してきた。グループディスカッションでは、生徒はメインテーマと同様、教員、保護者は「これからの社会で求められる力と教育のありかた」をテーマとしてきた。

2018年度の第13回は、新たな学習指導要領の趣旨を踏まえ、教育フォーラム自体を、思考力、判断力、表現力を醸成する機会とするため、「より良い社会を創るために、私たちができること」と、将来を意識したテーマに一新した。

生徒は、参加申し込み時に「起業する」や「SDGs」等を含む複数の社会課題からテーマを選択し、事前の準備を経て、当日は多様なバックグラウンドを持つ他校の生徒と意見を交わしグループとしての意見をまとめて発表した。また、教員・保護者グループは「思考力、判断力、表現力をいかに、未来を創造する教育のあり方」をテーマにディスカッションを行った。

2019年度の教育フォーラムも、生徒は「起業する」、「地球環境を守るには」、「災害への備え」、「異文化との共生」、「健康と福祉」、「世界共通の目標」といった各種社会課題をテーマにグループディスカッションを予定していた。生徒59名、教員30名、保護者3名が参加予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催を中止した。

教育フォーラムへの参加が、交流活動との初めての接点になる学校もある。なかには、管理職に促され申し込みをした教員から、参加前は気が進まなかったが、参加してみたら大変有意義だったという感想とともに、生徒向けの出張授業を実施したい、あるいは新たに校長として着任する学校で取り入れたいという具体的な相談が寄せられることもある。教育フォーラムの開催は、生徒に限らず、教員の意識改革や交流活動の存在を幅広い学校に知らしめることにも繋がっており、今後も内容の充実に努めたい。



3. 委員会における有識者との意見交換

日 時：2020年1月29日（水）16：00～18：00
テーマ：「教育現場における外部人材の活用の現状と課題、今後の展望」
登壇者：一般財団法人東京学校支援機構
統括コーディネーター（人材支援課長） 桜庭 望 氏
横浜市教育委員会事務局
学校教育企画部 小中学校企画課長 石川 隆一 氏

（1）開催主旨

学校を取り巻く環境や、社会と学校との関わり方も変化する中、子どもたちが自分で考える力を身につけ伸ばさせる上で、外部人材等に期待される役割について理解を深める観点から、都内の公立学校を支援する一般財団法人東京学校支援機構（Tokyo Education Promotion and Support Organization for Schools；以下、TEPRO）と横浜市教育委員会から登壇者を迎えパネルディスカッションを実施した。

TEPROからは、教育をめぐる現状や教育の質の向上、学校と教員の働き方改革、教育現場における外部人材の活用状況等について、横浜市教育委員会からは、教職員の働き方改革と社会に開かれた教育課程の実現、学校・教育委員会の課題、学校外の協力者への期待等について発言があった。

（2）得られた知見等

TEPROの講演では、子どもの自己肯定感には体験も関連しており、保護者が子どもと向き合う時間＝家庭教育が重要だが、現実には保護者も多忙であること、教育を巡る社会環境の変化に伴い、学校だけで課題を克服するのが困難になっており、地域社会総がかりで子どもたちの育成に取り組む必要があること、そうした観点から制度は整備されたが、学校現場は地域との具体的連携策を模索中であること、世界的な傾向として、STEAM教育、プログラミング教育など課題解決型学習が求められているが、自身がそうした教育を受けて来っていない教員は教える自信がなく、企業等と連携し体験学習を実施しても、その体験をどのような学びに結び付けるかという解を持っていない現実があること等の課題が挙げられた。

学びを変えていくためには、教員が思考する時間や研修を受ける時間的ゆとりを創出することが重要であり、単なる労働時間削減ではない「働き方改革」を進める必要がある。また、外部人材には、自身が持っている知識を伝えるだけでなく、「学びを支援し、生徒に寄り添う」かたちの協力を期待したいとの話もあった。

本会の提言『自ら学ぶ力を育てる初等・中等教育の実現に向けて』（2019年4月）から、「各分野における専門性や幅広い経験を有する人材に、教育に関与してもらうことが重要になり、企業がこうした人材の供給源となることが欠かせない。企業は、地域学校協働活動推進員等への人材供給や、学びと社会の連携推進事業等への参画を通じ、役割を果たしていく」との記述を引用され、子どもたちの未来のためにより良い方法を見つけるべく、意見交換の継続への期待が示された。

横浜市教育委員会の講演では、多様な生徒一人ひとりへの対応など学校に求められることが増えている現状があり、教職員の働き方改革は喫緊の課題であること、社会に開かれた教育課程を実現するには、世界や社会の状況を踏まえて、子どもたちに求められる資質・能力を明確化する必要があること、目指す教育課程の実現には、地域・企業等の協力が不可欠であること等の課題が挙げられた。

社会に開かれた教育課程の実現には、教職員がその理念を理解して子どもたちが身に付けるべき資質・能力を明確化し、学校外の協力者と共有することが重要であること、子どもたち自身にも社会に貢献する意識が必要であるとの言及もあった。

キャリア教育といっても多様であり、各学校がそれぞれの教育目標を踏まえて工夫している。例えば、課題解決型の学習では、企業等の協力を得てプロジェクトを実施するケースもある。社会で活躍する人からアドバイスを受け、チャレンジを繰り返し、最後までやり遂げることにより大きな学びを得ている。子どもたちが成長するのは感動体験をした時であり、心が動くと行動するようになることから、交流活動において経営者が出張授業等で話をする際は、各学校の教育目標を踏まえつつ、子どもたちに新しい視点、新しい世界を提示して貰いたいとの期待が示された。

・教育現場の声と経営者の気づきから得られた課題と今後の活動への示唆

2019年4月1日～2020年2月29日の間に出張授業等を実施した学校等にフィードバックを依頼した。経営者による出張授業や講演に対する評価は大変満足34件、満足5件であった。また、2020年1月7日時点の本委員会委員105名からも活動を通じた気づきを収集し（有効回答数：学校等39件、本委員会委員55名）、それらを以下の5つの切り口から整理した。

< 課題と今後の活動への示唆 >

1. 学校（生徒、教員）と社会との繋がり

先生方は、生徒の視野が狭いこと、学校の学びが社会とどう繋がっているのかイメージを持ってないこと、先生自身もグローバル社会を意識する機会が少ないことに課題を感じていた。

今後は、より臨場感をもってグローバル経済の最前線にいる経営者の経験を伝えるとともに、生徒や教員に企業訪問等の機会の提供も検討する。

2. 知識偏重、受験のための学びから、未来を生きるための学びへの転換

先生方は、知識偏重の学びから自分で考え判断しながら生きていく力を身につけるための教育への転換の必要性等を認識しているが、教員の多忙等により対応が追いつかないことへのジレンマが感じられた。

今後は、学校の要望に応じながら、双方向の対話形式の出張授業を増やすことで、生徒が考え、発信する機会を提供していく。

3. ニーズの多様化と負担感の増大に対応した学校経営のあり方と教員の不安

先生方からは、複雑化・多様化する課題に対応するため、管理職層のリーダーシップ、教員の働き方改革の実現、学校長からは、最新の経営理論を学校経営の参考にしたいたいの声が寄せられた。また、社会が期待する新しい教育に対応できるのか、不安を抱えていることも分かった。

今後は多くの悩みを抱える先生方に対して「教員フォーラム」の開催を検討する。

4. IT環境の整備

学校と経営者の双方から、IT環境の充実や専門人材の配置を通じた、先進的な教育の実現や教員の事務負担の軽減を期待する声が寄せられた。Emailを利用できずFAX / 電話のみの学校や、教員が個人アドレスを使用しているケースもある。

本会として学習用端末の一人一台化や学校・家庭の通信環境の早期整備を政府に働きかけるとともに、本委員会では、遠隔授業も検討していく。

5. 保護者・地域との連携

社会の変化や子どもたちが将来社会を生き抜くために必要な資質・能力に対する保護者・地域の関心の低さを指摘する声もあった。経営者からは教育を学校に任せきるのではなく、しつけ等は保護者の役割であること、子ども自身で考え、選択する経験をさせて貰いたいとの声があった。

今後はこれまで限られた接点しかなかった保護者・地域住民とのコミュニケーションの機会を増やしていく。

詳細は以下の通りである。

1. 学校（生徒、教員）と社会との繋がり

今回のフィードバックを通じ、先生方は、生徒に自らの将来を考えてもらおうとしても、身近な範囲内で考えるため視野が狭いこと、学業を終えて社会人になること、学校での学びが社会で生きることにどう繋がっているのかイメージを持ってないことなどに課題を感じ、生徒の視野を広げ、社会との繋がりを意識しながら、自らの人生や社会にどう貢献するかを考えてもらうための動機付けとして、経営者による出張授業を申し込んでいることがわかった。教員自身も加速度的に変化するグローバル社会を意識する機会が少ないことから、生徒たちに臨場感をもって伝えられないとの声も聞かれた。

今後は、グローバル経済の最前線にいる経営者の実体験を、臨場感をもって伝えることをこれまで以上に意識するとともに、経営者からも生徒や教員は実社会や多様な大人との接点、体験の機会が少ないのではという指摘があったことを踏まえ、生徒や教員に企業訪問等の機会を提供することも検討していく。

寄せられた声

学校等から	<p>【生徒に関して】</p> <ul style="list-style-type: none">・「働くこと」に対してのイメージが生徒の中で模索できないことと、社会に対しての興味をなかなか持てないため、社会にはどのような職があり、社会はどう動いているか、（社会をどう動かしているか）を知ってほしい。・知識や経験の少ない中学生にとって、企業経営者の方から社会の動きや働く意義などを直接伝えていただくことが大切で、疑似体験になると考える。・中学生が社会で活躍している人と直接接する機会が少ない現状がある。 <p>【教員に関して】</p> <ul style="list-style-type: none">・社会が大きく変わると言われているが、学校の教師がその意識を持ちにくく、他人ごとのように捉えているように感じている。次代を担う生徒には、そのような知識や考えをもった方から講演をいただくことで良い刺激を受けるキャリア教育になる。・学校が抱える課題の一つに、教職員の視野・意識が社会に向けられているかということがあげられる。
経営者から	<p>【生徒に関して】</p> <ul style="list-style-type: none">・多様な大人と接して、何かを考える機会が少ないのではないかと。いろいろな世界、多様な価値観、考え方をしる良いということをもっと伝えていく必要があると思った。・生徒たちは社会との接点が少ないのではないかと。現場を体験する機会をもっと増やしてあげたい。・普段学んでいることと実社会においての適用のイメージが薄いように感じられることが多い。

	<p>【教員に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会がどう変化し企業や個人がどう向き合っていくかについて、実感できる機会が少ない（知識でなく自分事として実感し、考える機会が少ない。先生も経験が少ない）。 ・ビジネスやグローバル化の進んでいる世界から遠く狭い地域におり、グローバル化や AI が来るこれからの社会について実感を得る機会がない。生徒以上に本会として教員・学校幹部や教育委員会との懇談の場があると意味があるのではないか。
--	--

2. 知識偏重、受験のための学びから、未来を生きるための学びへの転換

新学習指導要領では、子どもたちが未来社会を生きるために必要な力を養うための教育に重点が置かれている。主体的・対話的で深い学びを行うため、アクティブ・ラーニングを用いた授業の重要性が謳われ、課題解決型の探求学習等の取り組みも始められている。先生方は、知識偏重の学びから、自分で考え判断しながら生きていく力を身につけるための教育への転換が必要であることや、社会からそのような学校教育を期待されていることを認識している。しかし、教員の多忙や生徒・保護者の意識等も含め多くの課題があり、アクティブ・ラーニングや STEAM 教育等への対応が追いつかないことへのジレンマが感じられた。

出張授業の申込は、授業時間の 8 割を講話に、2 割を質疑形式にという希望がほとんどであるが、今回のフィードバックでは対話形式を希望する声も聞かれた。経営者からも、習得した知識をどのように活用して、解の無い課題を解決するかが重要との指摘があったことを踏まえ、今後は、準備に先立ち、事前の打合せを通じて学校側の真のニーズをより詳細に把握し、必要に応じて授業中に発問して生徒に考えてもらい、皆の意見をクラスで共有しながら進めるといった形式の出張授業を増やしていく。

寄せられた声

<p>学校等 から</p>	<p>【生徒に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率だけを求め「自分の興味のあるものしかやらない」「受験のための勉強」をしている生徒が多く見受けられる。 <p>【教員に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書を中心とした指導になりがちである。プラスアルファを指導しようにも時間が足りない状況があり、大学受験のための勉強になってしまう。
<p>経営者 から</p>	<p>【生徒に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ目的がしっかり伝わっていないように思う。目的が見えないために、テストの点数だけが指標になり、点が取れないことで教科を嫌いになっていくという構造になっているのではないか。 ・均質的な能力、知識を学ばせるのではなく、一人ひとりの自由で独創的な発想や異能を伸ばす教育が重要になる。

	<p>【教員に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知識を教え込むのが教育ではない。考える力を付けさせることが教育であろう。 ・ 生徒と接していると、沢山の情報の中から何を選択すると失敗しないか慎重になっている。模範解答ではない生き方のアドバイスをお願いしたい。 ・ 暗記による知識、偏差値のための勉強ではなく、予測の困難な将来社会において、子どもたちが自分の人生を主体的に生き抜くための学びが必要であり、個々の特性を伸長する授業を期待している。 ・ 生徒たちは学ぶ意義や目的が見えていないのではないか。詰め込んだ知識をどう活用するかが重要である。
--	--

3 . ニーズの多様化と負担感の増大に対応した学校経営のあり方と教員の不安

これまでも教育委員会主催の管理職教員・中堅教員研修や校長会等において、グローバル社会の現状やリーダーシップ、社会が求める人材等をテーマに講演を行ってきたが、今回のフィードバックを通じ、教員からは、複雑化・多様化する課題に対応するための「チームとしての学校」の実現や、管理職層のリーダーシップの発揮、教員の働き方改革の実現への示唆を期待する声が、学校長からは、最新の経営理論や実践を学校経営の参考にしたいとの声が寄せられた。また、社会が期待する新しい時代の教育に対応できるのか、先生方が不安を抱えていることも分かった。

経営者からも、管理職教員による教育ビジョンの明確化と強いリーダーシップの発揮や、将来社会を担う生徒を育成しているという教員の使命感と自己研鑽への期待の声が寄せられた。これらを踏まえ、経営者の経験を学校経営に生かしてもらえるよう、今後は教員とのコミュニケーションもより強く意識していく。その一環として、教員を対象とした「教員フォーラム」の開催を検討する。

寄せられた声

<p>学校等から</p>	<p>【学校経営に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの実態や教育課題、学校へのニーズは多様化の一途を辿っており、教員個人のスキルで解決できない事例も多くなっているため、管理職のリーダーシップのもと、「チーム学校」として、より一層、協働性が高まることを期待している。 ・ 学校が担うべきものと、そうでない部分をきちんと切り分けてほしい。学校の責任、教員の責任の部分が肥大化している現状があり、勤務時間の超過なども多くあり負担感のみが増加している。雑多なことが多くなり、生徒にかけられる時間が少ない。 ・ 最新の経営理論や実践を学校経営の参考にしていきたい。
--------------	---

	<p>【教員に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校でやるが増えているのに、教員の人材育成や新しいことへの対応力が追いつかない。 ・「教師が話すことを黙って聞いて、学力をあげることが美德」であった時代の学校は、令和の時代の学校にバージョンアップできるのか、不安である。
経営者から	<p>【管理職に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの自主的な生き方を一般教員と共有する管理職であってほしい。 ・個々の教員の自主性をも校長・教頭らがサポートすることが必要。 ・学校経営の基本方針を明確にし、強いリーダーシップを発揮し、学校をリードすること。一般の先生方の潜在能力を引き伸ばすことで、基本方針の実現を。 ・将来を見据えて学校のビジョンを明確にし、それを実現するための施策を自ら実行する。 <p>【教員に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今とは違う未来の社会を支える生徒と対峙している責任と自負を持って、その役割を全うする志や使命感のもと、生徒と向き合う教師を目指してほしい。 ・大変な忙しさではあるが、自己研鑽を積んでほしい。

4 . IT 環境の整備

学校と経営者の双方から、IT 環境の充実や専門人材の配置を通じた、先進的な教育の実現や教員の事務負担の軽減を期待する声が寄せられた。教育現場では Email を活用したコミュニケーション等が不可能なケースや、教員が個人アドレスを使用しているケースもある。今後、外部人材の活用を進める上では、こうした慣習がコミュニケーション・コストを高める可能性もあり、IT 環境の充実が急がれる。

新型コロナウイルス感染症拡大抑制のため、学校は一斉臨時休業措置がとられ、4月に閣議決定された「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」では、ICT 環境の早急な整備、遠隔授業における要件の見直し、遠隔授業における単位取得数の制限緩和、オンラインカリキュラムの整備、オンラインでの学びに対する著作権要件の整理の5つの施策³が示された。

休業の間、教員が創意工夫した動画配信や企業による教育コンテンツサービスの提供等、子どもたちの学習機会が失われないよう、さまざまな取り組みが進められた⁴。政府は好事例を蓄積・集約し横展開を図るとともに、遠隔教育が授業として認められるための「同時双方向」要件の緩和や、配信用教材にかかる著作権をより広範に許諾不要とするなど⁵、学

³ 「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策～国民と生活を守り抜き、経済再生へ～」(令和2年4月7日閣議決定)

⁴ 横浜市教育委員会では、小学校1年生から高校3年生を対象に、2020年4月中に予定されていた学習内容について、指導主事や教員が教科書を基に作成した動画を配信。福島県立ふたば未来学園中学・高等学校では、オンライン学活や課題の学習状況確認にICTを活用。NTTコミュニケーションズ株式会社では、教育クラウドプラットフォームサービスの一部コンテンツにおいて無償提供を実施。

⁵ 経済同友会『小・中学校の子供の学びを止めないために～遠隔教育の推進に向けた意見～』(2020年6月17日)

校事務・授業の双方において IT 環境の整備を加速させるべきである。

本会として、学習用端末の一人一台化や学校・家庭の通信環境の早期整備、子どもたちの学びを止めない柔軟な対応を政府に働きかけるとともに、本委員会では、遠隔授業や異なる地域の学校を同日同時間にオンラインでつなぎ、経営者とともに意見交換するといった授業にも取り組んでいきたい。

寄せられた声

学校等から	<p>【学校に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IT 環境の充実を期待する。 ・ IT 専門家の各学校への配置。
経営者から	<p>【行政に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IT 基盤の充実、遠隔教育の増加。 ・ IT 施策の強化：IT の分かる若手 CIO の選任、ICT 予算の確保、保護者との情報管理に関する契約の締結の推進等 ・ 資金が潤沢ではないものの、IoT の活用による教育の進展によって、教員の方の負担を軽減しつつ、教育の質の向上につなげて頂きたい。 ・ 全教科で紙の教科書を廃止し、IT (PC・タブレット) を活用することで、より効率的かつ先進的な教育を目指すべき (5G・IoT・Big Data・AI の時代は、IT を自由に使いこなせないと日常生活にも支障がでる可能性がある)。 <p>【学校に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校側からのコンタクト、やり取りが Email で出来ない時がある (電話ではタイミングが合わない場合がある)。 ・ 学校の教員のメールアドレスを拝見し (プライベートアドレスの使用)、驚き、課題を認識した。これからもっと学校と社会がコラボしていくためと IT 武装するための基本の変革の必要性を感じた。

5 . 保護者・地域との連携

学校等からは、保護者や地域の方に対し、日頃の理解や支援に感謝する声が聞かれた一方、社会の変化や子どもたちが将来社会を生き抜くために必要な資質・能力への関心の低さを指摘する声もあった。経営者からは、教育を学校に任せきるのではなく、躰等の家庭教育は保護者の役割であることや、子どもが自分で考え、選択する経験をさせてあげてほしいとの声があった。

今後は、学校や PTA 主催の講演会等への講師派遣等を通じて、保護者や地域の方々と交流の機会を増やしていく。また、保護者という顔も持っている従業員等に対しても、学校、家庭、地域、企業等がそれぞれの役割を果たしながら社会全体で次世代を育成することの重要性を伝えていきたい。さらに、学校や教育委員会等に対し、子どもたちの身近な存在である保護者に、一社会人として出張授業をしてもらうことを提案するなど、子どもたちが社会を身近に感じ、また身近な大人をリスペクトすることに繋がるような機会を増やしていく。

寄せられた声

<p>学校等 から</p>	<p>【保護者に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化に伴う職や働き方の変化について保護者にも理解いただければと思う。 ・保護者の皆様に支えられているが、ごく一部とはいえ、いろいろな活動について効果の有無など否定的な考えの方もいる。社会の一員として第三者的な目を持っていただきたいと思うところもある。 ・偏差値重視や学歴重視だけでは、予測不可能なこれからの社会を生き抜いていくことが難しい時代になってきていることに気付いてほしい。 ・できるだけ多くの時間を子どもと共に過ごしていただきたい。家庭で保護者の皆さまのお仕事の話や進路選択、考え等を日頃から話していただきたい。一番の理解者、相談相手はやはり家族だと思うので、家庭で同じ時間を共有してほしい。 <p>【地域に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域から活躍できる人材を育成していけるように、学校で何が行われているか興味を持ってもらいたい。 ・生徒の社会における体験不足を補ってくれるのは、地域の方々だと考える。 ・生徒への声かけ。マナー違反をしていたらその場で伝えてほしい。生徒は話に夢中になっていたり、知らなかったりするだけなので、地域全体で見守っていただきたい。
<p>経営者 から</p>	<p>【保護者に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の子どもだけでなく、生徒みんなが育成されることを視野に入れ、学校と協力しながら前向きに取り組む姿勢を子どもたちに見せてあげて欲しい。 ・学校教育に何もかもを期待する、若しくは学校をクレームの対象とするようなことがあると残念。家庭でなすべき躰や教育、栄養や衛生面での配慮はなるべく保護者の方に行って頂きたい。家庭と学校とが協力して、生徒さんの健やかな成長に資することができればと思う。 ・子どもの話にもっと耳を傾け、質問して、自分なりに考え、選択するという経験、小さな失敗から学ぶ経験を積ませてあげてほしい。 ・これまでの常識、既定路線だけでは生きていけない子どもたちの将来に向けて、偏差値だけを評価基準とせず、逞しく、夢のある人間を育てられるように自身も保護者として努力していきたい。 <p>【地域に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携が進められ協力的に関与されているのは素晴らしいと思うが、特定の方々のみが活躍されているのではないか。 ・人口減により地域衰退に向かう中で、地域の子どもたちを育成して付加価値を上げることが地域の再成長につながるのではないか。

・ 経営者による出張授業や講演の事例紹介

出張授業等の中には、学校等の企画段階から相談を受け、綿密な調整を経て実施に至るケースもあり、そうしたケースは総じて学校、経営者双方から評価が高い。今後の出張授業等の企画・立案の参考となるよう、2019年度に実施した出張授業等を中心に、特色ある事例を紹介する。

(1) 公立中学校（東京都八丈島八丈町立三根学園富士中学校）

プログラムの全体像：

生徒向け出張授業（2019年10月26日実施）

学年毎に実施。保護者・地域住民へ公開。

パネルディスカッション（2019年10月26日実施）

全校生徒向けに実施。保護者・地域住民へ公開。

教員向け講演会（2020年2月5日実施）

島内すべての小・中・高校教員、保護者・地域住民、約100名向けに実施。

位置づけ：八丈町教育研究指定校における、教育研究の一環

目的：

生徒のキャリア教育推進

キャリア教育の推進を通じて、主体的に学習に取り組む生徒を育成する。

ビジネスの中心でグローバルに活躍する経営者の話を聞き、生徒に世界との繋がりを意識させる。

保護者および地域との連携

保護者・地域に公開することで、学校と地域が連携して生徒のキャリア教育を考える機会にする。

教育研究発表会における記念講演

教員自身がグローバル化する世界、社会の変化を知り教育活動に活かす。

準備のプロセス：

- ・ 本会の教育フォーラムに参加経験のある学校長が、教育研究担当教諭へ交流活動を紹介。
- ・ 実施予定日の約5カ月前に学校から相談を受け、実施目的や学校における授業の位置づけ、経営者に期待する内容、実施希望日程、講師派遣人数等を具体的に確認して、調整を進める。
- ・ 約3カ月前に講師3名を決定し、学校（学年担任）と講師が直接、当日の授業内容のすり合わせ、準備を進めた。
- ・ 当日は、校長室において担任教諭と生徒の様子や留意点、流れ等を再確認してから授業に臨んだ。
- ・ 教員対象の講演に関しても、3カ月前に講師を決定し、準備を進めた。



校長室における先生方と講師の事前打ち合わせ

実施内容：

（出張授業）学年ごとに教室にて実施

机を向き合わせてグループごとに座る学年もあった。講師を務める経営者は、資料を投影しながら身近なエピソードを交えて説明したり、グループを回りながら生徒に問いかけたりした。生徒はグループごとに短時間で考え話し合い、グループの意見を発表し他のグループの意見も踏まえ、また考える形式で授業を行った。その際、経営者と生徒のみではなく、担任教諭と経営者が連携しながら進行する場面も見られた。

（パネルディスカッション）体育館にて実施

経営者3名によるパネルディスカッションは、途中で生徒へ質問を投げ掛ける形式で行われた。全校生徒の前で生徒が質問しやすい雰囲気作りを担当教諭に担っていたが、経営者と連携しながら進められた。

（当日の様子）

出張授業

1年生には、『働くことからの学びと社会を変える力』と題して、経済社会における銀行や金融の役割について、「人間の身体に例えたら血液のようなもので、さまざまな産業の機能をつなげること」と説明した。将来やってみたいことなどを生徒に問い掛け、起業という働き方についても触れた。講師のシリコンバレーでの経験を基に、自分と異なる考えの人や環境の異なる人と話すことにより、新しい気づきが得られ、多様な人が集まることでチームが強くなると伝えた。



2年生には、『ロボットが世界を変えていく』と題して、生徒たちが事前に描いてきたロボットのイメージの共有や家庭用ロボット掃除機のデモンストレーションを交えながら、技術革新と未来社会を考え、「ロボットにできることはロボットに任せ、われわれは、それ以外の人間にしかできない感性にあふれたことをしていこう」と締めくくった。



3年生には、『働く意義とグローバル社会におけるリーダーシップ』と題して、生徒たちに、なぜ働くのかや、グローバル化に関して思い当たるキーワードを考えてみようという投げ掛けながら授業を進めた。「社会は変化するが、恐れることはなく、分かろうと努力すること、分かる人とつながることが大事。また、さまざまな人と共感するためにも、英語はしっかり学ぼう、時間をかければ誰でも必ずできる」と激励した。授業の終わりに3年生の生徒から、「半年後には義務教育を終える。自分たちの理想を実現するためには、多くの人とかかわっていくことになる。社会に出ることに不安はあるが、これからの社会を自分たちが担うことの大切さと英語の必要性を理解しました」との感想が述べられた。



パネルディスカッション

教室での授業の後は、体育館に会場を移し、「働くことからの学び」と題してパネルディスカッションを行った。3人の経営者が、仕事における転機や海外での経験を通じて感じたこと、学んだことを紹介し、働くことによって社会や人の役に立ち、自らも学びを得て、成長していくと語った。読書の大切さ、英語、中国語、プログラミング、笑顔によるコミュニケーションの大切さにも触れ、最後に「皆さんには可能性がたくさんあります。より良い世界をつくってもらいたい。そのためには多様な仲間とチームアップして、恐れずに挑戦してもらいたい」とのメッセージが送られた。



生徒感想

1年生

- ・ すごく大きな仕事をしてきている人から話をきいた。自分が何となく想像しているような生き方ではなく、もっと楽しい将来を考えたいと思いました。
- ・ 3人の方々の話、意見、質疑応答などから、いろいろな話が聞けて面白かった。自分も大人になって海外へ行き、いろいろな人の話を聞いてみたいので英語を頑張ろうと思う。

- ・私は将来、何にでもなれるのだなと思いました。今まで将来について考えてこなかったけれど、「まず、何をしたいかから考えよう」と言われて、将来やりたいことを考えるいい機会でした。
- ・日本での仕事を中断してアメリカに行き、一から仕事を始めて、現地の人と意見が合わないことなど困った時のエピソードを聞いた。三人の先生のいろいろな話をきいて私も将来海外に行ってみたいと思った。

2年生

- ・経験を積んだ方の話を聞いてとてもためになりました。自分も英語ができるようになりたいと思いました。留学もちょっとしてみたいと思いました。
- ・今までは、ロボットへの知識や関心はなかったけど、ロボットのできることなどを聞いて、凄さを学べた。
- ・社会ではどのような事をするのか、どのような事がきっかけになるのか、何を大切にすべきか、10年後に何をしようと思うか、いろいろ学び、考え、発表することができました。
- ・何回失敗しても、何回もチャレンジしていて凄いいと思いました。
- ・講演の時に、大切にしていることは何かという社長さんへの質問に対して、「笑顔」と答えて、「笑ってみてください」というリクエストにも応えられました。それを見ていた周りの人も笑顔になり、「ほら、みんな笑顔になる」と話され、本当に大切だと改めて感じました。

3年生

- ・普段あまり考えないことをグループで話し合い、たくさんの意見を出しました。大人になったら働くのが当たり前で、なぜ働くのかなんて考えたこともなかったので、社会人になる前にきちんとお話を聞いてよかったと思いました。
- ・「分からないこと」を恐れないことを強く教えていただきました。将来、仕事を決めるときや悩んだときに講演を思い出して、正しく前向きな人生を歩みたいです。
- ・英語や共感性が大切だと特に感じました。いろいろな事を経験して挑戦していくことも必要なのだと思いました。
- ・AIが進展しても、人間にしかない感情を大切に、人にしかできない事を見つけてやっていこうと思った。

保護者・地域の方の感想

- ・経営者の方が、生徒からの質問に対して一つ一つよく考え真剣に答えられていた。実体験を伴った話には、説得力があると感じました。
- ・今日の経営者の方々のお話の根本は哲学だと思います。中学校で「哲学」を学ぶ時間が作れたらよいと思いました。素晴らしい方々が授業をしているのに、保護者の参加数が少ないことに驚きました。

(八丈町立小・中・高校教員、保護者・地域の方に向けた講演)

八丈島内のすべての小学校、中学校、高等学校の教員、保護者・地域住民、約100名を対象に、経営者による講演を行った。

『これからの社会で必要な人材』と題した講演では、横並びにならないこと、理由も含めた意見を自分の言葉で発信できること、グローバル社会における英語の必要性、社会生活を送るための金融教育の重要性について、諸外国の例を紹介しながら語った。日本の横並び傾向や周囲の空気を読む時代は終わり、グローバル社会では、自分の意見を発信し自己表現しなければ存在が認められないため、教員には、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、生徒の自発的な発言を認める空気づくりも求められる。また、将来社会において、何が求められているかを知るには、教員自身も社会の変化を知る必要があると述べた。



教員の感想

- ・何が求められているかは世の中を知ることだと思い、教員の勉強不足を感じました。生徒にこれからの社会を生きるための「生きた体験」が足りないと感じます。
- ・日本の金融教育がほとんど行われていないということについて深く考えさせられました。まずは自分自身の知識を深めることから始めようと思いました。また、外国の金融教育についても調べ、今後の教育に生かしていきたいと思います。
- ・日本人のウィークポイント(自己主張できない)についてわかりやすく話していただきました。われわれ教職員、保護者が、それをどう捉え、どのように子どもを育てていくかが課題です。
- ・私たち大人の意識を変えていかなければ本当の意味で教育は変わっていかないと感じました。社会科の授業から変えていこうと思います。
- ・昭和・平成・令和とどのように社会が変化していて、これから何が必要になるのか、何を求められるのかが分かり、興味深いお話しでした。ありがとうございました。
- ・将来を見据え、海外と向き合う子供たちを育てていくために、自分の考えをもつこと、そして伝えることができることを常に意識しながら、授業していきたいです。

(2) 私立中学・高等学校(國學院大学久我山中学高等学校)

プログラムの全体像:

高校1年生(女子部)向け講演(2019年6月3日実施)

中学3年生(女子部)向け出張授業(2019年9月17日実施)

教育フォーラム: 中学2年生~高校2年生の希望者、教員向け

グループディスカッション・交流(2019年11月30日実施、保護者へ公開)

中学2年生(女子部)向け出張授業(2020年1月20日実施)

経済同友会 第14回教育フォーラムへの参加

(2020年3月21日 新型コロナウイルス感染症拡大抑制のため開催中止)

位置づけ: キャリア教育

目的:

- ・ 中学2年生から高校2年生の間における段階的なキャリア教育の一環として経営者による出張授業、講演を実施。
- ・ 特に中学3年生については理系分野への関心、視野を広げることを目的とする。
- ・ 本会の「教育フォーラム」は一校からの参加人数に限られることから、同校内において生徒、教員が参加するグループディスカッションと交流会を開催し、保護者へも公開。

準備のプロセス:

- ・ 前年度末に提示される年間計画について打ち合わせを行い、時期、対象学年、目的や希望内容に沿って、講師を調整。
- ・ 約2~3カ月前に講師決定。
- ・ 担当教員が講師を訪問し、依頼内容や学校におけるキャリア教育の位置づけ、期待する内容、生徒の様子等の打ち合わせを行う。
- ・ 当日は、授業・講演の前に教員と講師間で生徒の様子や留意点、流れの最終確認を行う。

実施内容:

中学2年生は『働くということ...人はなぜ働くの?』をテーマとした講演形式で、中学3年生は『働くということ...世の中のしくみを知ろう!そして今やるべきことは?』をテーマに3グループに分かれた授業形式で、高校1年生は、『続・働くということ...進路を考える』をテーマに講演形式の出張授業を実施した後、中学2年生から高校3年生の希望者を対象に、『働くということ、これからの社会あなたはどう生きる!?』をテーマとした教育フォーラムを開催した。生徒6グループ、教員1グループの計7グループに、それぞれ1名ずつの経営者が参加する形式でのグループディスカッションと懇親会が行われ、保護者にも公開された。



同校の教育フォーラムに参加した生徒の感想

- ・今回学んだことは3つあります。1つ目は、世界の人口が仮に200人だとすると日本人の割合は3人で、3人以外の人と理解し合うためには、自分の考えを伝える必要があること。2つ目は事実を話すこと、3つ目は自分研究をすることです。何ができるか、何をしたいか、自分の考えを明確に持ち、発信できるようになりたいと思いました。
- ・私は、夢がなくて悩んでいましたが、そんなに悩まずに、まずは色々なことに挑戦してそこから探して行こうと考えることができました。
- ・今の段階で、将来の希望を一つに絞る必要は無いとわかりました。今やるべきことや身に付けるべきことを一生懸命していれば、気づく瞬間があると聞いて、狭い視野から離れようと思いました。
- ・進路について迷っていましたが、お話を聞いて選択の幅を広げ、いろいろなことに挑戦したい気持ちになりました。「自立」して自分の生活を確立してベースを作らなければ何も始まらないと感じました。自分の意見が言える人になりたいです。
- ・先生がお仕事を楽しんで誇りを持っていらっしゃる事が伝わってきました。私も、自分の選択に自信を持てるよう、たくさん本を読み、他の人と意見を交わし、好きなことを追いかけていきたいです。前向きな考えを持つことができました。
- ・日頃の授業では、指名されてもハッキリと意思表示ができずにいましたが、今回、勇気を振り絞って手を挙げ、発言したとき、新鮮さを味わえました。先生のように、さまざまな事に関心を持つことで、会話が弾むことが出来るようにコミュニケーション能力を高めていきたいです。

同校の教育フォーラムに参加した教員の感想

- ・「事業」というキーワードは新鮮であった。担任業務や授業を行う上で、少し固まった考えがあった部分を柔軟に転換できた気がしました。担当する教科の在り方に苦心していましたが、事業という一つの考え方でモノづくり、ことづくりに関わっていると自覚でき、社会や経済の流れの中にしっかり位置付けられていると確信できたことが今回の最大の学びです。今後の教育にいかせると希望を持ってました。
- ・学校という組織が生徒に何を教えるべきかを考え直すことができました。教職以外の業種を知らない教師であっても、生徒に対して指導できることはたくさんあり、時代が変わっても社会人に必要な礼儀や教養、論理的な思考力を身に付けさせることをこれまで以上に意識して指導していきます。
- ・私たち教員が全ての教科の魅力と必要性を理解できておらず、生徒に伝えきれてないと感じました。学ぶことの楽しさや、教科が日常でどのように活用(必要)とされているか知ることが、生徒のモチベーションに直結していることを改めて痛感しました。
- ・教科を超えた意見交換の場が実は大切である、また、多様な価値観、複数の答えが教育の現場にも存在して構わないという認識を持つことができました。時代の変化を恐れず柔軟に向き合っていく勇気を持つことが大切だと感じました。

(3) 公立中学校(府中市立の中学校)

プログラムの全体像:

中学3年生向け出張授業(2016年10月18日、19日実施)

位置づけ: 公民(株式会社のしくみを学ぶ単元)

目的:

- ・生徒は授業の中で、班に分かれて「企業づくり」を行う。企業の業種、キャッチコピー、社会的役割、求人広告等をまとめる。企業の社会的責任、企業づくりにおけるポイント、求人(人材確保)等について、経営者の視点から、生徒のプランへの指導(アドバイス)をもらう。
- ・生徒が社会における企業の役割や、働く意義を考える機会とする。

準備のプロセス:

- ・実施予定日の約5カ月前に学校から相談を受け、目的や学校における授業の位置づけ、経営者に期待する内容、実施希望日程、講師派遣人数等を確認。
- ・当該単元の具体的な授業計画を事前に共有して貰い、単元のどのタイミングで経営者による出張授業を実施するのが効果的か、担当教員と打合せを行った。
- ・約2カ月前に講師を決定し、生徒が作成予定の「企業の企画書を作成しよう」「主力商品・サービスを企画しよう」シートと事前授業の内容を共有。
- ・出張授業の約2週間前に、生徒が記入したシートと経営者への質問が講師の手元に届き、講師が準備を行った。

実施内容:

- ・3学年計5クラスに対して、クラスごとに講師を派遣。
- ・生徒がグループごとに事業プランを発表し、経営者がなぜこのプランなのか、どのような課題解決に繋がるのか、違う視点は検討したかなどを次々と質問しながら、アドバイスを言い、企業の社会的役割や働く意義、人との協働、そして中学生として学ぶことの大切さを伝えた。

生徒の感想:

- ・会社を経営するということが、どれだけ大変なのかを知ることができました。ターゲットの数、実際に商品を利用してくれるのかを考えながら価格設定しなければならないことなど、さまざまなアドバイスを貰えて良かったです。今の仕事がロボットに置き換わっても人間にしかない感情を生かせるなど、たくさんのことを教えていただきました。
- ・信じる力、聞く力、失敗する勇気、質問する勇気の大切さを知ることができました。私たちの班の企画にグローバルな視点を入れられよう、工夫していきたいと思います。
- ・自分たちが作った株式会社についてアドバイスなどが聞ける機会だったので一言一句逃さずに聞こうと集中していたので時間が過ぎるのが早く感じた。世界の人と競争相手になることしか考えてなくて、仲間だとは思っていなかった。世界にも自分の仲間がたくさんいると思うと、今までより気持ちになりました。コミュニケーション、質問する勇気を持つことは大切だと感じました。

生徒が作成した、『企業の企画書を作成しよう/主力商品・サービスを企画しよう』シート

公民学習 **企業の企画書を作成しよう**

企業の企画書	
社名 一星	社長
業種 情報通信業	取扱い品・サービス内容 スマホ向けのアプリ・ICチップ
従業員数 約10人	所在地 八王子市
事業内容 障害者は生活の上で不自由な場面があり、それをより生活しやすくするために、アプリを開発する。 Blue toothで、スマホと家電を接続し、家電をスマホで操作できるようにする。セキュリティのため、マイクを取り入れる。 また、家電がスマホで操作できるようにするため、家電にICチップを取りつける。(ICチップをつける) 外を歩く時に、危険を察知して教えてくれる機能もアプリに取入れる。	
主力商品・サービス (値段も記入する) ・アプリ... 800円 ・ICチップ... 1つ 1000円 取付11台 1世帯 3000円	
キャッチフレーズ (モットー・セールスポイント) 誰もがより良い生活を送る	
企業づくりの目的や動機 障害のある人を支えるため、また、働く女性や母子(父子)家庭の支援	
社会的責任や社会における役割 視覚・聴覚・身体障害のある方の負担が少しでも軽くなるようにする。働く女性や母子(父子)家庭(特に家庭)の負担を軽減したり、子供が家で安心して暮らせるようにする。	
商品開発に必要な設備・費用 取寄5万1000円 (送料) ICチップ 中小企業に頼む(1億円)	

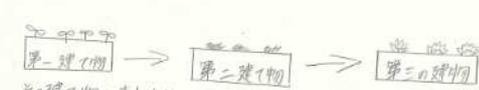
公民学習 **主力商品・サービスを企画しよう**

商品・サービス名 SIO (SIOアプリ・SIOチップ)
ターゲット (年齢層・性別) 視覚・聴覚・身体的障害のある方、働く女性や母子(父子)家庭など、忙しい方など
商品・サービスの内容 (イラスト等も入れてわかりやすく作ろう) アプリ スマホ向けのアプリ → 障害者は生活の上で不自由な場面があり、それをより生活しやすくするために、スマホで家電を操作できるアプリを開発する。 アプリの説明 Blue tooth(無線)でスマホと家電を接続し、家電をスマホで操作できるアプリ。 外を歩く時に危険を察知して教えてくれる機能もあるアプリ。 ダウンロード時にセキュリティのためマイクを取り入れる。
商品 ・ICチップ → 上のようなアプリと連動し、スマホで操作し動く家電にするために、家電にICチップを取りつける。 ICチップの説明 スマホのアプリと連動して家電が動くように家電に取りつける。 多様な電器をついにまとめる電気部品
 <p>値段は... ①→スマホで操作し電子レンジを作れる。 ②→スマホで操作し電気のレンジを作れる。 ③→スマホで操作し電気のレンジを作れる。 ④→スマホで操作し電気のレンジを作れる。 ⑤→スマホで操作し電気のレンジを作れる。</p>
商品・サービス開発の費用 (開発にかかるコスト) アプリ... 企業と手を組んで、アプリの開発を進める(そのお礼は毎月になる) ICチップ... 中小企業と手を組んで1億円以内のICチップを作ってもらおう 加えて、障害者や支援をするというこの企画をサポートしてくれる団体と手を組む。
商品・サービスの値段 (いくらで商品・サービスを提供するか) スマホ向けのアプリ

公民学習 **企業の企画書を作成しよう**

企業の企画書	
社名 ブランドファーム	社長
業種 水産・農林業	取扱い品・サービス内容 農業体験・果物・野菜の提供
従業員数 20~50人	所在地 山梨県 富士河口湖町
事業内容 今、日本の果物や野菜が外国に人気があります。最近では外国人観光客が増えているので、私たちは農業体験と果物・野菜のサービスを提供します。 ~ 外国人と無職の人 ~ { 外国人... 農業体験ツアー 無職... 職をあたえる	
主力商品・サービス (値段も記入する) 体験ツアー費 5000円 労働資金 日給 5000円 (15歳以上から→)	
キャッチフレーズ (モットー・セールスポイント) ☆ 農業体験を通して、外国人のほかに新鮮な果物や野菜を提供し、日本食にふれあってもらい、日本の食を改めて気づいてもらう。 ☆ 農業を行う楽しさを味わってもらう。	
企業づくりの目的や動機 日本の第一産業を活性化して、日本の食べ物や世界に広げる。	
社会的責任や社会における役割 過疎化が進んでいる地域を復興する。	
商品開発に必要な設備・費用 土地・機械・種	

公民学習 **主力商品・サービスを企画しよう**

商品・サービス名 山梨のブランド果物と野菜
ターゲット (年齢層・性別) 15歳以上の男女、外国人観光客
商品・サービスの内容 (イラスト等も入れてわかりやすく作ろう) 外国人 体験ツアーで、3分クッキングのように、最初~最後まで野菜や果物の成長の建て物をつくる。 例)  その建て物をまわりながら、水やりから収穫まで行う ツアー参加費 1日 5000円... 収穫のみ 3日 13000円... 種まきと収穫を行う 7日 21000円... 種まきから収穫まで行う } 野菜 } 3日、5日のコース ↓ 果物 } + 別のプレゼント <無職> 1人4日働かせ、1人1日稼働してもらう 7泊10日の提供!
商品・サービス開発の費用 (開発にかかるコスト) 7700円 3000万円 (254万円)
商品・サービスの値段 (いくらで商品・サービスを提供するか) 参加費とともに、商品を提供するが、お返しは、 果物... ジャインマスカット 5000円、ぶどう 3800円、もも(3個入り) 3000円 野菜... クルソン(1100円) 500円、トマト(1kg) 1800円、つぼみ(1kg) 600円 (1kgあたり)

・おわりに

子どもたちは、テクノロジーの進展による世界の変化や、新型コロナウイルスのような感染症、自然災害など地球規模の課題に対応していかなければならない。世界・社会がどのような状況になっても、グローバル社会の一員であるとともに、一個人としてより良い人生を歩んでいける力を育む必要がある。

子どもたちの学びに的確に貢献していくため、出張授業の質の向上を図る観点から、学校等からフィードバックを貰い、われわれに対する期待や今後に向けた課題を5つの切り口から整理した。

その結果、今後は、グローバル経済の最前線にいる経営者として、社会との繋がりについて臨場感を持って伝えることをこれまで以上に意識していくとともに、企業訪問等の機会を提供することも検討する必要があると感じた。

出張授業の実施に際しては、事前の打合せを通じて学校側のニーズをより詳細に確認・把握した上で双方向型の授業を含め創意工夫を凝らすとともに、多くの悩みを抱える先生方には「教員フォーラム」の開催を、またこれまで限られた接点しかなかった保護者・地域の方々ともコミュニケーションの機会を増やしていきたい。新型コロナウイルス感染症対策のため多くの学校において臨時休業等が長期化し、子どもたちの学びに大きな影響をおよぼした実情を踏まえ、IT環境の整備については、本会として政府による整備の加速を求めていく。一刻も早い事態の収束を祈るとともに、感染の第二波、第三波も視野に遠隔授業等を通じた学びの機会の提供についても実施を検討したい。そして、環境が整った学校等から順に、遠隔授業などICTを活用した出張授業等にも取り組んで行く。

本委員会の活動は、われわれ経営者自身にとっても学びの多いものである。より多くの会員各位に参加・協力いただき、これからの社会を生きる子どもたちの資質・能力の醸成への貢献、学びを支える学校・先生方の支援、保護者・地域の方々とのコミュニケーションなどを今後ますます充実させていきたい。

経営者が教育現場を訪問し、先生方・子どもたちとのコミュニケーションを通じて得た知見を纏めた本報告が、政府による抜本的な教育改革の後押しや、子どもたちの学びを深めるための政策提言の一助となることを期待する。

以上

1. 2019年度出張授業等実績一覧

2019年度「学校と経営者の交流活動推進委員会」講師派遣実績

開催日	実施地域	出張授業・講演 / 研修会等	国公立 / 私立	対象	人数	出張授業・講演テーマ	派遣講師人数
5/20(月)	新宿区	教員研修会	公立	全国商業高等学校校長	350	企業社会の変化とこれからの学校教育 学校教育・経営への期待について これからの社会で求められる人材・能力等 これからの社会におけるAI・ICTの活用について	1
5/30(木)	愛媛県松山市	出張授業	国立	中学1年生～3年生の希望者	30	働くということ	1
6/3(月)	杉並区	講演	私立	高校1年生	139	働くということ……進路を考える	1
6/18(火)	岩手県	教員研修会	公立	岩手県内の専門高等学校 校長	70	少子化における産業界と教育界の連携の在り方	1
6/18(火)	埼玉県	教員研修会	公立	10年目の教員	1100	これからの社会を生き抜く次世代人材育成の視点、 組織の中堅としての人材の役割と期待	1
7/2(火)	滋賀県	教員研修会	公立	新任教頭	100	「民間企業に学ぶ学校組織マネジメント」	1
7/3(水)	足立区	出張授業	公立	中学1年生(4クラス)	120	「私たちはなぜ働くのか」	4
7/5(金)	千葉県浦安市	講演	私立	大学 外国語学部1年生	280	働くということ(働く意義や職業観など)	1
7/8(月)	八王子市	講演	公立	中学2年生	88	働くということ(働く意義や職業観など) / 多様な社会に生きる	1
7/17(水)	足立区	教員研修会	公立	足立区内公立中学校校長	35	学校における働き方改革	1
7/17(水)	兵庫県神戸市	講演	公立	全校生徒	810	起業について	1
7/17(水)	大田区	出張授業	公立	中学2年生(4クラス)	125	働く意義や社会人として心掛けること	4
7/25(木)	武蔵村山市	教員研修会	公立	小中学校(校長、副校長、 主幹教諭)	60	社会情勢を知り、学校経営に生かす	1
7/30(火)	埼玉県	教員研修会	公立	市内小中学校の中堅教諭	60	中堅教諭としての役割	1
8/22(木)	新宿区	教員研修会	公立	商業高校教諭	47	これからの社会がもたらす人材像	1
8/27(火)	杉並区	教員研修会	公立	教員	15	これからの日本社会が求める人材とは	1
8/27(火)	品川区	出張授業	公立	中学1年生(4クラス)	160	進路を考える	4
				中学2年生(3クラス)	120		3
9/3(火)	青梅市	講演	公立	高校2年生	240	グローバル社会で生き抜く力について	1
9/17(火)	杉並区	出張授業	私立	中学3年生(3グループ)	128	働くということ……世の中のしくみを知ろう！そして、今やるべきことは？	3
9/26(木)	東京都檜原村	教員研修会	公立	檜原村内中学校長	12	「民間企業の人材育成と組織マネジメントについて」	1
10/2(水)	東久留米市	講演	公立	高校1年生	60	「産業社会と人間」	1

2019年度「学校と経営者の交流活動推進委員会」講師派遣実績

開催日	実施地域	出張授業・講演 / 研修会等	国公立 / 私立	対象	人数	出張授業・講演テーマ	派遣講師人数
10/16(水)	足立区	出張授業	公立	中学1年生(3クラス)	90	働くということ(働く意義や職業観など)	3
				中学2年生(3クラス)	90		3
				中学3年生(2クラス)	60		2
10/19(土)	世田谷区	出張授業	私立	中学3年生～高校2年生の希望者	50	働くということ(働く意義や職業観など)	1
10/26(土)	世田谷区	出張授業	私立	中学3年生～高校2年生の希望者	32	働くということ(働く意義や職業観など)	1
10/26(土)	八丈島	出張授業	公立	中学1年生	30	これからの社会で必要となる力、求められる人材像	1
				中学2年生	28		1
				中学3年生	33		1
10/26(土)	八丈島	パネルディスカッション	公立	全校生徒(中学1～3年生)	91	働くことからの学び(パネルディスカッション)	3
10/29(火)	千代田区	出張授業	私立	大学院生	20	私と金融ビジネス	1
10/30(水)	足立区	出張授業	公立	中学1年生(5クラス)	171	働くということ(働く意義や職業観など)	5
11/5(火)	富山県	講演	公立	高校2年生	160	失敗や後悔から今に活かしていること	1
11/8(金)	八王子市	講演	公立	中学1年生	72	働くということ(働く意義や職業観など)	1
11/9(土)	世田谷区	出張授業	私立	中学3年生～高校2年生の希望者	36	働くということ(働く意義や職業観など)	1
11/16(土)	世田谷区	出張授業	私立	中学3年生～高校2年生の希望者	29	働くということ(働く意義や職業観など)	1
11/22(金)	江戸川区	出張授業	公立	中学1年生(2クラス)	32	働くということ(働く意義や職業観など)	2
11/30(土)	杉並区	グループディスカッション	私立	中学2年生～高校2年生の希望者(6グループ)	60	働くということ……これからの社会、あたなはどう生きる!?	6
				教員(1グループ)	10		1
11/30(土)	世田谷区	出張授業	私立	中学3年生～高校2年生の希望者	47	働くということ(働く意義や職業観など)	1
12/3(火)	横浜市	出張授業	公立	サンディエゴ姉妹校研修に参加する選抜生徒	20	日本企業におけるCSR	1
12/5(木)	滋賀県瀬田市	講演	私立	大学農学部3年生	200	ダイコン一本からの革命 有機農業で世界を変える-	1
12/12(木)	滋賀県瀬田市	講演	私立	大学農学部3年生	200	デザートと'食'との関わりについて	1

2019年度「学校と経営者の交流活動推進委員会」講師派遣実績

開催日	実施地域	出張授業・講演 / 研修会等	国公立 / 私立	対象	人数	出張授業・講演テーマ	派遣講師人数
12/12(木)	千葉県勝浦市	出張授業	公立	中学3年生(3クラス)	90	「社会人に必要な事」 「大人に必要な事」	3
				中学2年生(3クラス)	90		3
12/14(土)	足立区	講演	公立	全校生徒(中学1～3年生)	249	これからの時代を生きる力～大事なことは自分研究～	1
12/17(火)	千代田区	講演	私立	大学院生	30	今後急速に成長する金融分野はここだ ～金利なき先進国、市場の変質～	1
12/18(水)	国立市	講演	公立	高校2年生	209	働くということ(働く意義や職業観など)	1
12/20(金)	大田区	講演	公立	中学3年生	116	社会を考える・知る	1
12/23(月)	調布市	講演	公立	高校1年生	280	働くということ(働く意義や職業観など)	1
1/15(水)	埼玉県	教員研修会	公立	近い将来管理職として 期待される県内中堅教員	210	経営者としてのリーダーシップと人材育成、これからの社会を 生き抜く子供たちの教育(学校組織経営マネジメント)	1
1/15(水)	横浜市	講演	公立	全校生徒(中学1～3年生)	527	企業等としてSDGsにどのように貢献しているのか	1
1/20(月)	杉並区	講演	私立	中学3年生	118	「働くということ……人は、なぜ働くの？」	1
1/23(木)	埼玉県	講演	公立	高校1年生	280	これから求められる人材像と働くということ(働く意義や職業観など)	1
1/28(火)	台東区	教員研修会	公立	台東区立幼稚園、小・中学 校の校長・園長	35	人材育成について	1
1/28(火)	世田谷区	出張授業	私立	中学2年生(6クラス)	186	グローバル社会で生きるとは	6
1/30(木)	練馬区	講演	公立	中学1年生	190	働くということ(働く意義や職業観など)	1
2/5(水)	八丈島	教員研修会	公立	八丈島内の小中高の 教職員	100	主体性の教育、キャリア教育について	1
2/19(水)	北海道網走市	出張授業	公立	小学校6年生	48	働くということ	1
2/22(土)	三鷹市	出張授業	公立	中学2年生(4クラス)	160	働くとはどのようなことか、社会におけるリーダーとは	4
2/25(火)	青森県八戸市	講演	公立	中学1年生	150	多様な社会に生きる	1

2019年度「学校と経営者の交流活動推進委員会」講師派遣実績

新型コロナウイルスの感染症拡大抑制のため、3月実施予定はすべて中止

開催日	実施地域	出張授業・講演/ 研修会等	国公立/私立	対象	人数	出張授業・講演テーマ	派遣講師人数
3/5(木)	板橋区	講演	公立	中学3年生	107	働くということ(働く意義や職業観など)	1
3/6(金)	多摩市	出張授業	公立	中学3年生(4クラス)	148	未来を考える～中学生に贈るメッセージ	4
3/6(金)	大田区	出張授業	公立	中学2年生(3クラス)	100	働くということ(働く意義や職業観など)	3
3/6(金)	足立区	講演	公立	中学3年生	100	多様な社会に生きる	1
3/13(金)	世田谷区	出張授業	私立	高校1年生(6クラス)	200	働くということ	6
3/21(土)	千代田区	経済同友会主催 第14回教育フォーラム	公立・私立	中学1～3年生、 教員、保護者	生徒59名 教員30名 保護者3名 計92	メインテーマ「より良い社会を創るために、私たちができること」	10
3/23(月)	葛飾区	出張授業	公立	高校2年生(6クラス)	220	「働くことの意義と喜び」「多様な職業を知る」	6

2. 出張授業等の実施件数

出張授業等 実施件数 1999年度～2019年度合計：2149件

(件)

種別 対象	授 業				講演会・研修会			大学 ・その他	合計
	小学生	中学生	高校生	計	教員	保護者	計		
1999年度	0	1	4	5	12	1	13	0	18
2000年度	0	4	6	10	17	2	19	0	29
2001年度	0	21	16	37	37	17	54	0	91
2002年度	0	15	10	25	28	7	35	1	61
2003年度	0	22	13	35	34	13	47	2	84
2004年度	0	14	20	34	36	6	42	2	78
2005年度	0	44	32	76	47	8	55	7	138
2006年度	1	50	29	80	53	7	60	6	146
2007年度	3	45	32	80	47	6	53	9	142
2008年度	4	42	25	71	46	10	56	13	140
2009年度	1	51	35	87	41	8	49	8	144
2010年度	2	50	39	91	44	4	48	7	146
2011年度	1	42	38	81	28	7	35	11	127
2012年度	0	53	33	86	28	4	32	6	124
2013年度	1	48	48	97	33	5	38	8	143
2014年度	2	53	43	98	29	3	32	12	142
2015年度	1	50	30	81	20	4	24	6	111
2016年度	0	34	36	70	14	3	17	0	87
2017年度	1	35	22	58	19	1	20	5	83
2018年度	0	26	12	38	14	2	16	6	60
2019年度	1	21	15	37	13	0	13	5	55
合計	18	721	538	1,277	640	118	758	114	2,149

2019年度実地件数は、新型コロナウイルス感染拡大抑制のため中止となった3月実施予定分（中学生向け：4件、高校生向け2件、第14回教育フォーラム）を除く。

2012年度～2016年度の高校生対象の出張授業は、IPPO IPPO NIPPON プロジェクトにおける実施分（2012年度4件、2013年度11件、2014年度6件、2015年度10件、2016年度7件）を含む。

出張授業等 講師派遣人数 1999年度～2019年度合計：4304人

(人)

種別 対象	授 業				講演会・研修会			大学 ・その他	合計
	小学生	中学生	高校生	計	教員	保護者	計		
1999年度	0	2	4	6	12	1	13	0	19
2000年度	0	14	6	20	17	2	19	0	39
2001年度	0	70	20	90	37	17	54	0	144
2002年度	0	56	10	66	28	7	35	1	102
2003年度	0	67	20	87	35	13	48	2	137
2004年度	0	77	40	117	47	6	53	7	177
2005年度	0	146	54	200	55	8	63	14	277
2006年度	1	143	41	185	59	7	66	6	257
2007年度	4	153	49	206	64	6	70	9	285
2008年度	5	134	60	199	65	13	78	13	290
2009年度	3	162	66	231	51	8	59	10	300
2010年度	4	145	75	224	57	4	61	7	292
2011年度	1	111	68	180	34	9	43	13	236
2012年度	0	184	65	249	35	4	39	6	294
2013年度	1	144	89	234	41	5	46	8	288
2014年度	2	142	88	232	44	4	48	12	292
2015年度	1	132	75	208	25	6	31	6	245
2016年度	0	119	65	184	16	3	19	0	203
2017年度	1	86	62	149	23	1	24	5	178
2018年度	0	80	33	113	24	2	26	6	145
2019年度	1	64	21	86	13	0	13	5	104
合計	24	2,231	1,011	3,266	782	126	908	130	4,304

2019年度講師派遣人数は、新型コロナウイルス感染症拡大抑制のため中止となった3月実施予定分（中学生向け：9名、高校生向け12名、第14回教育フォーラム）を除く。

2012年度～2016年度の高校生対象の出張授業は、IPPO IPPO NIPPON プロジェクトにおける実施分（2012年度4人、2013年度11人、2014年度6人、2015年度10人、2016年度7人）を含む。

3. 教育フォーラム開催実績

第1回～第13回 教育フォーラム

メインテーマ：「勉強するのは何のため？働くってどういうこと？」

プログラム 開会挨拶 基調講演 グループディスカッション 総括

【基調講演】

第1回:2007年3月24日(土)

敬称略、所属・役職は開催当時

テーマ:「これからの国際社会に生きる君たちへ ～人は何のために働くのか～」

講師:北城 悟太郎 (経済同友会 代表幹事、日本アイ・ピー・エム 取締役会長)

第2回:2008年3月8日(土)

テーマ:「グローバル時代に求められる生きる力」

講師:小林 いずみ (経済同友会 副代表幹事、メリルリンチ日本証券 取締役社長)

第3回:2009年3月14日(土)

テーマ:「これからのグローバル社会に生きる君たちへ ～何ごとも疑問(はてな?)から始まる～」

講師:桜井 正光 (経済同友会 代表幹事、リコー 取締役会長執行役員)

第4回:2010年3月13日(土)

テーマ:「『解』のない時代を生きるための力」

講師:浦野 光人 (経済同友会 地球環境問題委員長、ニチレイ 取締役会長)

2011年3月は震災により中止

第5回:2011年9月3日(土)

テーマ:「これからのグローバル社会で求められる力とは ～中学生の君達へ期待すること～」

講師:橘・フクシマ・咲江 (経済同友会 副代表幹事、G&S Global Advisors Inc. 取締役社長)

第6回:2012年3月24日(土)

テーマ:「みなさんが生きる21世紀ってどんな世界？」

～グローバル化の進展に伴うチャレンジとチャンスに満ちた世界～

講師:長谷川 閑史 (経済同友会 代表幹事、武田薬品工業 取締役社長)

第7回:2013年3月23日(土)

テーマ:「自ら学ぶ力をつけよう！」

講師:前原 金一 (経済同友会 副代表幹事・専務理事)

第8回:2014年3月15日(土)

テーマ:「失敗しよう。失敗して成長の糧にしよう。」

講師:長島 徹 (経済同友会 副代表幹事、環境・エネルギー委員会委員長、帝人 相談役)

第9回:2015年3月14日(土)

テーマ:「未来の一員へ ~みなさんの創る未来~」

講師:加瀬 豊 (経済同友会 幹事、双日 取締役会長)

第10回:2016年3月19日(土)

テーマ:「これからの社会・これからの世界」

講師:小林 喜光 (経済同友会 代表幹事、三菱ケミカルホールディングス 取締役会長)

第11回:2017年3月18日(土)

テーマ:「好奇心が人生を楽しくする」

講師:志賀 俊之 (経済同友会 副代表幹事、日産自動車 取締役副会長)

第12回:2018年3月17日(土)

テーマ:「これからの時代に求められる人材像」

講師:木川 眞 (経済同友会 副代表幹事、ヤマトホールディングス 取締役会長)

【グループディスカッション】

生徒グループ テーマ 「勉強するのは何のため？働くってどういうこと？」

教員グループ テーマ 「これからの社会で求められる力と教育のありかた」

保護者グループ テーマ 「これからの社会で求められる力と教育のありかた」

第13回:2019年3月23日(土)

(社会の変化に対応したテーマおよびプログラム内容に一新)

メインテーマ : 「より良い社会を創るために、私たちができること」

プログラム

開会・委員長メッセージ

グループディスカッション

総括(全生徒グループ発表)

【グループディスカッション】

生徒メインテーマ「より良い社会を創るために、私たちができること」

- ・起業する
- ・SDGs に貢献する(17GOALS の中から次の5つを取り上げた) 3. 「すべての人に健康と福祉を」 7. 「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」 11. 「住み続けられるまちづくりを」 13. 「気候変動に具体的な対策を」 16. 「平和と公正をすべての人に」
- ・2020 東京オリンピック・パラリンピックのボランティアをする
- ・地球環境のため行動宣言

教員・保護者テーマ「思考力、判断力、表現力をいかし、未来を創造する教育のあり方」

参加者数

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2011年 9月	2012年 3月	2012年度
中学生	65	47	65	75	37	79	84
教員	41	45	52	49	38	31	41
保護者	31	16	16	10	19	12	4
計	137	108	133	134	94	122	129

参加者	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	(第14回)
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
中学生	73	85	93	95	129	74	(59)
教員	49	50	34	24	38	29	(30)
保護者	7	19	20	14	8	3	(3)
計	129	154	147	133	175	106	(92)

2019年度 第14回教育フォーラムは新型コロナウイルス感染症拡大抑制のため開催中止。
カッコ内は申し込み時点の参加予定人数。



学校と経営者の交流活動推進委員会

(敬称略)

委員長

栗原 美津枝 (価値総合研究所 取締役会長)

副委員長

石渡 明美 (花王 執行役員)

島田 俊夫 (CAC Holdings 特別顧問)

高橋 秀行 (ステート・ストリート信託銀行 取締役会長)

成川 哲夫 (岡三証券 取締役)

林 恭子 (グロービス シニア・ファカルティ・ディレクター)

林 礼子 (メリルリンチ日本証券 取締役 副社長)

日色 保 (日本マクドナルド 取締役社長兼CEO)

挽野 元 (アイロボットジャパン 代表執行役員社長)

山田 メユミ (アイスタイル 取締役)

委員

浅野 敏雄 (旭化成 常任相談役)

有田 浩之 (ブラックロック・ジャパン 取締役社長)

安部 和志 (ソニー 執行役 専務)

池田 潤一郎 (商船三井 取締役社長)

石塚 達郎 (日立製作所 アドバイザー)

石原 雅行 (タカラPAG不動産投資顧問 取締役会長兼CEO)

井上 正明 (ポピンズ 取締役副社長執行役員)

上田 昌孝 (東日本銀行 社外取締役)

薄井 充裕 (新むつ小川原 取締役社長)

海野 忍	(NTTコムウェア 相談役)
大井 滋	(JX金属 特別理事)
大岡 哲	(大岡記念財団 理事長)
大久保 昇	(内田洋行 取締役社長)
大塚 良彦	(大塚産業クリエイツ 取締役社長)
大西 賢	(商船三井 取締役)
岡本 和久	(I-Oウェルス・アドバイザーズ 取締役社長)
尾崎 哲	(野村アセットマネジメント 取締役会長)
小野寺 純子	(GKデザイン機構 顧問)
恩田 学	(GTM総研 常務取締役)
勝又 幹英	(INCJ 取締役社長 COO)
鴨居 達哉	(アビームコンサルティング 取締役社長)
川名 浩一	
木川 眞	(ヤマトホールディングス 特別顧問)
北川 太	(テクノプロ・ホールディングス 執行役員)
清原 健	(清原国際法律事務所 代表弁護士)
久保理子	(アフラック生命保険 取締役常務執行役員)
栗山 和也	(コマツ 常務執行役員)
小井土 慶太	(日本レロイ 取締役社長)
高坂 節三	(日本漢字能力検定協会 代表理事 会長兼理事長)
小島 秀樹	(小島国際法律事務所 弁護士・代表パートナー)
小林 恵智	(ヒューマンサイエンス研究所 理事長)
昆 政彦	(スリーエム ジャパン 取締役社長)
齋藤 勝己	(東京個別指導学院 取締役社長)
斎藤 祐馬	(デロイト トーマツ ベンチャーサポート 取締役社長)

佐久間 万 夫	(Eパートナー 取締役社長)
清 水 祥 之	(全国就労支援事業者機構 常務理事)
下 村 満 子	(東京顕微鏡院 特別顧問)
須 田 修 弘	(B A S F ジャパン 取締役副社長)
関 根 愛 子	(日本公認会計士協会 相談役)
曾 谷 太	(ソマール 取締役社長)
反 町 雄 彦	(東京リーガルマインド 取締役社長)
高 橋 亨	(グロービス マネジング・ディレクター)
高 橋 衛	(HAUTPONT研究所 代表)
田久保 善 彦	(グロービス経営大学院大学 常務理事)
多 田 幸 雄	(双日総合研究所 相談役)
田 中 愛 治	(早稲田大学 総長)
田 中 淳 一	(ジェンパクト 取締役社長)
田 中 洋 樹	(日本カストディ銀行 取締役会長)
田 中 豊	(アートグリーン 取締役社長)
玉 川 雅 之	(工学院大学 常務理事)
塚 本 隆 史	(みずほフィナンシャルグループ 名誉顧問)
堤 浩 幸	(フィリップス・ジャパン 取締役社長)
中 川 和 久	(大原学園 理事長)
中 島 好 美	(ヤマハ 取締役)
永 田 亮 子	(日本たばこ産業 常勤監査役)
中 塚 晃 章	(ジヤトコ 取締役社長兼最高経営責任者)
中 野 賀津也	(旭有機材 取締役社長)
中 村 公 大	(山九 取締役社長)
永 山 妙 子	(プレリューダーズ 代表取締役)

新 倉 恵里子	(東和エンジニアリング 取締役社長)
西 川 知 雄	(城西国際法律事務所 代表弁護士)
丹 羽 利 行	(パロマ 常務執行役員)
橋 谷 義 典	(クオンタムリープ 副会長 兼 Co-CEO)
長谷川 健 司	(管清工業 代表取締役)
林 明 夫	(開倫塾 取締役社長)
原 伸 一	(SOMPOホールディングス グループCHRO 執行役常務)
原 田 明 久	(ファイザー 取締役社長)
樋 口 智 一	(ヤマダイ食品 取締役社長)
日比谷 武	(上智大学)
古 内 耕太郎	(経営デザイン・Partners 取締役社長)
古 河 建 規	(SOLIZE 取締役会長)
保 坂 雅 樹	(西村あさひ法律事務所 執行パートナー)
増 田 健 一	(アンダーソン・毛利・友常法律事務所 パートナー)
松 澤 和 浩	(青山総合会計事務所 取締役会長)
松 島 訓 弘	(グリー 常勤監査役)
松 林 知 史	(ティルフ・マネジメント 代表)
蓑 田 秀 策	(デジタルホールディングス 取締役)
宮 内 孝 久	(神田外語大学 学長)
武 藤 潤	(鹿島石油 取締役社長)
室 伏 きみ子	(お茶の水女子大学 学長)
森 健	(プログビズ 代表取締役)
森 田 均	(ノースアイランド 常任顧問)
両 角 寛 文	(KDDIエボルバ 取締役会長)
矢 原 史 朗	(パイオニア 代表取締役)

山 口 公 明 (セントケア・ホールディング 取締役)
山 下 徹 (NTTデータ シニアアドバイザー)
山 田 哲 矢 (ラックス 代表取締役)
山 中 雅 恵 (パナソニック コネクティッドソリューションズ社 常務)
山 中 祥 弘 (ハリウッド大学院大学 学長・理事長)
吉 沢 正 道 (ロングリーチグループ 代表取締役)
吉 丸 由紀子 (積水ハウス 取締役)
渡 部 一 文 (アマゾンジャパン バイスプレジデント)

以上102名

事務局

齋 藤 弘 憲 (経済同友会 執行役)
山 本 郁 子 (経済同友会 政策調査部 グループ・マネジャー)
山 田 孝 子 (経済同友会 政策調査部 マネジャー)
小 島 彩 華 (経済同友会 政策調査部 アシスタント・マネジャー)